



発行所 財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部金44円
題字 井戸知事

火は消した？
いつも心に
きいてみて

第二十回 兵庫県消防操法大会

平成十六年八月二十九日(日)に兵庫県立広域センターグラウンドにおいて、第二十回兵庫県消防操法大会が開催されました。

大会に出場したのは、県下九地区の代表チームで、小型ポンプの部九隊、ポンプ車の部九隊の合計十八チームが、熱戦を繰り上げました。

大会に出場したのは、県下九地区の代表チームで、小型ポンプの部九隊、ポンプ車の部九隊の合計十八チームが、熱戦を繰り上げました。

一宮町消防団 が行われました。続いて、関山大会会長のあいさつ。その後、井戸兵庫県知事から激励の言葉をいただき、来賓を代表して原兵庫県議会議長と井上内閣府防災有事故法担当大臣から祝辞を賜りました。その後、柏原町消防団堀敏彦選手の力強い



開会式



放水!

い選手宣誓の後、審査長である元山広域防災センター長から競技上の諸注意があり開会式は終了しました。競技が始まるまでの準備の間には神戸市消防音楽隊による素晴らしいドリルパレードが行われ、応援に駆けつけた方々を楽しませていただきました。

競技は小型ポンプの部、昼食休憩を挟んで、ポンプ車の部の順に行われました。強い夏の日差しが照りつける中、各地区の代表としての誇りと自信を胸に、選手の方々は、毎日の練習の成果を遺憾なく発揮され、真剣なまなざしで操法に取り組みしていました。各選手のきびきびとした動きに息を飲むような緊張感の漂う会場でしたが、ホースを延長し、火点の標的が放水によって落ちるたびに、各地区から応援に駆けつけた応援団や観客から大きな声援と盛大な拍手が沸き起こっていました。

出場した十八チームのすべての操法が終了し、元山審査長より、審査結果の発表が行われました。

結果は次のとおりです。

【小型ポンプの部】

- 優勝 神崎町消防団
- 準優勝 神戸市北消防団
- 道場支団Aチーム
- 第三位 洲本市消防団

【ポンプ車の部】

- 優勝 神崎町消防団
- 準優勝 八千代町消防団
- 第三位 波賀町消防団

見事に両部門で優勝した神崎町消防団には、ポンプ車の部優勝チームに東田兵庫県防災監より消防庁長官表彰の優勝旗が授与され、続いて小型ポンプの部優勝チームには関山大会会長より



ポンプ車の部優勝



小型ポンプの部優勝

こんにちは！ひょうごの消防団です 消防団 Free Talk 掲示板より

「県消防協会事務局の皆さん、また昨日の兵庫県消防操法大会に関わられたすべての皆さんお疲れ様でした。どのチームも、さすが県大会と言うレベルの高い内容だったと思います。当町も連日連夜、夜遅くまで練習してきて満足行ける内容の操作ができました。

今回はポンプ自動車の2番員が練習中に肉離れを起こしてしまい一週間前から練習できませんでした。チームの雰囲気も下がっていたのですが気持ちを持ち直し、当日は痛み止めを打ってもらっての出場でした。結果としてダブルで優勝できたのは天候も含め運が良かったからだと思っています。

今回全国大会に出場させていただく分団は十年前に全国三位になった分団です。今回はもちろんその上を目指して頑張ります。兵庫県下全分団の熱い思い、悔しい思い、すべての思いを声援に兵庫県代表として練習に励みますのでよろしくお願い致します。本当に有り難うございました。」

<http://www.hyogoshoubou.jp/>



美方町消防団長 本城 繁信



古い消防組織については記録が残されていないので、詳細は不明ですが、明治十年に消防隊がつけられたといわれており、消防としての自衛組織は古くからあったようでございます。

その後、昭和二十二年に小代村消防団になり、昭和三十年の町村合併により現在の美方町消防団が誕生いたしました。

美方町は基幹産業が農業だったため、冬期間は酒屋での出稼ぎが多く、男子消防団員だけでは

は消火活動が手薄になるため、昭和三十三年に

婦人消防隊が設立され、現在でも二十五人の女性消防団員が本部付として在籍しており、主に予消防防活動を行っております。

今後、消防団のみならず、一般住民による防火クラブの編成や、更に少年消防クラブの育成に一層の努力をしていきたいと考えております。

消防団今昔

34



消防団は様々な活動を通して地域に貢献しています。一番に力を注いでいるのは「操法」で、操法の習得を通じた個々の鍛錬と信頼関係の形成こそが稲美町消防団の組織力の原点と位置づけています。団の事業としては、新入団員・部長・幹部の研修、献血事業、操法大会、水防・防災訓練、年末警戒等の事業計画に基づきあらゆる災害に備え、活動しています。

合併し稲美町となりましたが、消防団は従前とおり、加古消防団、母里消防団、天満消防団の三消防団体制でした。



稲美町消防団長 橋 剛司

稲美町は、兵庫県の東播磨地域のほぼ中央に位置しています。歴史的には水に恵まれなかつた大地を、先人が苦勞して切り開き、緑と大地とため池を築き

東播磨の穀倉地として発展、現在ではすばらしい田園風景が広がります。面積三四・九六平方キロ、人口三万三千人を守るのが稲美町消防団であります。

昭和三十年三月三十一日に加古郡加古村、母里村、天満村が

昭和五十一年十一月七日、これら三消防団を統廃合し、稲美町消防団として、四十三分団、一、三八九名で発足しました。その後、昭和五十七年四月一日に加古川市へ消防業務を事務委託し、消防力の充実を図ることにより、団員数の削減に取り組む、合理化と機構改革を図ることとなりました。三年計画の初年度となる昭和五十七年度は一五五名、次年度は一七〇名、最終年度の昭和五十九年一月一日に二〇一名の団員を削減し、現在の八六三名の団員となり、分団数を六分団とし四三部となりました。

これらの活動が認められ、様々な表彰の栄に浴することができ、誠に名誉なことであり、今後も地域に根ざした住民から頼られる消防団を目指しがなっております。

地区通信

「消防顕彰之碑」除幕式

―君たちのことはわすれない―

神戸市支部

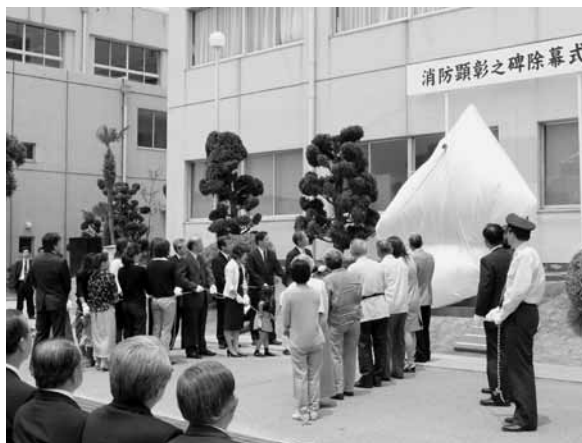
昨年六月に殉職した四人の神戸市消防職員、岡本晃始さん、田中俊信さん、矢野孔明さん、石丸祐介さんの功績をたたえ「消防顕彰之碑」が神戸市民防災総合センター（北区ひよどり台三丁目）に完成し、五月三十日、除幕式が行われました。遺族の皆様をはじめ、矢田立郎神戸市長、市消防職員ら約三百名が参加し、あらためて四人の勇気と使命感に思いをはせました。顕彰之碑は高さ約一・六メートルのブロンズ製、台座には亡くなった四人の名前を刻んだプレートのほか彼らをたたえる碑文が掲げられています。

六月二日午前九時三十分、西区伊川谷町の現場では、矢田立郎市長をはじめ市消防局幹部、同僚らが献花を行い、四人の冥福を祈るとともに、市消防局、全消防署・消防出張所で半旗が掲げられ全職員が黙祷し、各部署で所属長による「災害現場における安全管理」などについて訓示がありました。

顕彰之碑

平成十五年六月

四人の若者が、炎と闘い、逝った家族を愛し、友を愛し、仕事を愛した彼らは我々の手の届かないところで、遍く人びとを見守ってくれているだろう。我々は彼らの死の悲しみのうちから立ち上がり、愛するもののために職に殉じた彼らの勇気と使命感を讃え、その遺志を継承し、人びとが安全で、安心して暮らし、集えるまちをつくることを誓い、ここに顕彰之碑を建立する。
平成十六年 水無月 紫陽花のころ



また、四人を追悼し、事故の教訓を後世に伝えるために、神戸市消防局は、六月二日を「消防誓いの日」とし、毎年、追悼行事や研修、訓練を行っています。

「地域の誰もが安心して暮らせる町のために」

新宮町消防団

木津 真人 団長



新宮町は、兵庫県南西部、西播磨地域のほぼ中央にあり、町西部には世界最大の大形放射光施設スプリングエイトがある

「これでもか!」

三原町消防団

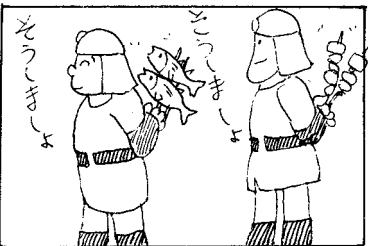
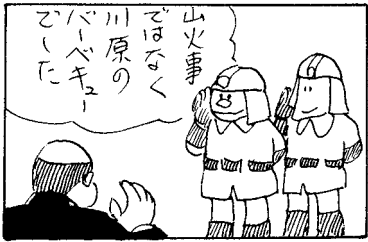
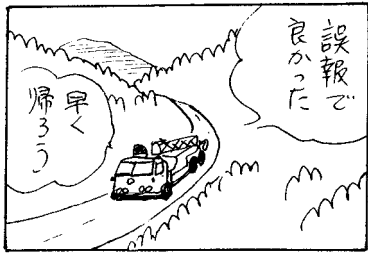
真野 和典 団長



三原町は、淡路島南部にある三原郡の真ん中辺りに位置します。三原町消防団、精鋭五六八

山の消防署

山ノ消防署



播磨科学公園都市が、上郡町と三日月町にまたがって形成され、次世代の科学技術を支える国際的な都市として期待されており、最先端の都市が共存しています。そして、この二面性を併せ持つ町を、火災・水災・地震等あらゆる災害から守っているのが、木津団長を筆頭とする新宮町消防団五九四名です。

行力、そして人柄を認められて平成十五年十月一日に団長に就任され、以降、その手腕を随所に発揮されています。団長は、昨年十月に拝命されたばかりですが、副団長としての長年のキャリアを生かして、新人団長とは思えないほどの統率力及び指導力を随所に発揮されています。

また、プライベートでは酒とカラオケ、ゴルフをこよなく愛するとともに、若い団員には気さくに声をかけるなど団員に対する目配り気配りを欠かさず、団員はもとより、団幹部の厚い信頼を得ています。今後安全で安心して暮らせるまちづくりのため、強力なリーダーシップを発揮されますとともに、市町合併を間近に控えた新宮町消防団を牽引されることが期待される、頼もしい団長です。

わがまちの団長さん

18

名の団員を率いる真野和典団長は名ゼリフを作るのが得意かつ大好きです。自他ともに認める「防災の星」の団長の信条は「一、やってみるはいいことではない、二、やらずにできるはずがない、三、やってみようやれるまで」そして信念は「これでもか!」

今年のスローガンは「消防団の意識改革」、消防団員としてのプライドを見つめ直そうと例年行われる行事についても取り組み方をいろいろ変えて実施し

ており、九月十二日には「大規模で、挑戦型の訓練を実施したい」ということで、自衛隊・警察・ライフライン関係機関等と共に三原町防災訓練を実施しました。団員は「これでもか!」というハードな実動訓練に取り組み、くたくたになりながらも消防団員として自信のよりどころとなるものをまた一つ経験・体得しました。

「地域に根ざした消防団活動」

地区通信

西脇市消防団

西脇市は、兵庫県のほぼ中央、中国山地の南東麓に位置し、周囲を緑の山々に囲まれた自然豊かな地にあります。県下最大の河川・加古川と清流・杉原川が合流する地点に市街地が開けています。

西脇市消防団の歴史は古く、明治二十八年四月に多可郡消防組(多可郡西脇町・同重春村・同日野村・同比延庄村)が発足、昭和二十七年四月に一町三村が西脇市施行に伴い合併し、西脇市連合消防団及び四地区消防団として改編、昭和二十九年三月

に加西郡芳田村が西脇市に編入し、五地区消防団となりました。昭和三十八年四月に機構改革により五大体制に再編、更に昭和四十一年四月機構改革により六分団四十三部六九七名の体制となつていきます。

我が団は六分団、四十三部すべてに車両を配置(水槽付き消防ポンプ自動車二台、普通消防自動車十四台、小型動力ポンプ積載車二十七台)し、いかなる災害にも万全を期す体制がとられています。消防団は火災や水害などの災

害に出勤することはもちろん、花火大会や地元のみつりの警備、各種イベントに参加し、火災予防を呼び掛ける広報活動や地域の安全を守るため日頃から訓練を実施しています。

春・秋の火災予防週間には、隣接する分団による合同の消防訓練、火災予防啓発パレードを実施し、パレードには園児・小学生が消防自動車に同乗し、子供たちの声で地域住民に火災予防を呼び掛けています。

また、平成七年四月には、遠隔地就業から昼間消防団員の減少地域に係る消防力の低下を補完するために、昼間区域内に居住することが常である消防団OBによる「消防協力員制度」を導入し、現在九十四名の方に消防協力員として活躍いただいています。



パレード実施前の式典に参加する子供たち



消防車両に同乗、マイクで広報活動を開始

